



2023年秋の読書週間



糸島市立図書館員おすすめの本

秋の読書週間（10月27日～11月9日）にちなんで、糸島市立図書館員が選んだおすすめの本を紹介しています。図書館では、各館の特集コーナーに、おすすめの本を集めています。ぜひ、手に取ってご覧ください。



糸島市図書館本館 ☎092-321-1432
 糸島市図書館二丈館 ☎092-332-2118
 糸島市図書館志摩館 ☎092-332-2119
 (<https://itoshima.libweb.jp/>)

一般書



『古代中国の日常生活
 24の仕事と生活でたどる1日』
 荘奕傑／著
 小林朋則／訳
 原書房 2022.2
 222ソ 本館所蔵

小説で一場面だけ出てくる人物がいる。僅かな出番だが、世界観や設定がよく分かる重要な役回りだったりする。本書はそうした端役24人の短編時代小説集である。皇帝や将軍など主役クラスは登場しないが、産婆や侍女、農夫や下級役人たちの話から紀元17年新王朝時代の中国が鮮やかに浮かび上がってくる。



『子どもと2人日本脱出
 タイ暮らし。10年目』
 おこめ／著
 オーバーラップ 2023.3
 292.3オ 志摩館所蔵

タイに住みたいーかなり本気で考えている。それを実践した人がいる、しかもワンオペ子連れで！異国ではちょっと旅行した時とはケタ違いのアメイジングな日常が待っていることだろう。それでもタイの人々の笑顔とマイペンライな心に囲まれて暮らせたら、幸せになれそうな気がする。私におこめさんほどの行動力があればなあ。



『ロシア点描 まちかどから見るプーチン帝国の素顔』
小泉悠／著
PHP研究所 2022.5
302.3コ 本館所蔵

ロシアによるウクライナ侵攻以降、テレビでもおなじみになった著者。堅苦しい著作が多いのですが、この方、実は硬軟併せ持つ只者ではない人物です。そんな著者が経験と知識をもとに適度に柔らかく、しかし愛情のこもった冷徹さで描き出す「ロシア」。日本の隣人について、本書を通じてちょっと覗いてみませんか。



『カップ一杯の魔法
ハーブティーブレンドレシピ
88』
しばたみか／著
山と溪谷社 2022.2
499.8シ 本館所蔵

体や心が疲れたな、、、と感じたとき。そんな時はハーブティーを飲みながらのんびり過ごしてみませんか。可愛いハーブの妖精たちによる基本的なハーブの案内や、月の周期・星座別・季節の移り変わりに合わせたハーブティーのレシピなどが紹介されています。この本でああなたの魔法のレシピを見つけてみませんか？



『切手デザイナーの仕事
日本郵便切手・葉書室より』
間部香代／著
グラフィック社 2022.10
693.8マ 本館所蔵

郵便が届いたら、どのくらい切手に目を留めていますか？1年に発行される切手は約40件。その全てをたった8人のデザイナーが生み出しています。本には、8人の仕事ぶりや人生模様など魅力満載。切手に描かれているのは食べ物・風景・動植物・キャラクター、まるでそこは小さな美術館。郵便物を受け取る楽しみがひとつ増えるかもしれません。



『すみれの花、また咲く頃
タカラジェンヌのセカンド
キャリア』
早花まこ／著
新潮社 2023.2
775.4サ 本館所蔵

“きらびやか”とイメージされる宝塚歌劇団。そのような世界に10代後半から身を置く彼女たちが退団後、どのような道を歩むのか興味深い。10人いれば10通りの人生があるように「元タカラジェンヌ」と、ひとくくりにはできないことが本書を読めばわかるだろう。すみれの花、また咲く頃...
一度咲いた花はまた咲くことができるのだ。人生100年時代、第2の人生に向かってGO!



『翻訳できない世界のことば』
 エラ・フランシス・サ
 ンダース／著・イラスト
 ト 前田まゆみ／訳
 創元社 2016.4
 804サ 本館所蔵

その国だけのニュアンス、特性など、他の言語に訳すと言い表せない翻訳できないことばを、素敵なイラストに添えて紹介されています。ちなみに日本語では、『ボケっと』や『積ん読』などが入っています。当たり前のことばと思っていたものが、ほかの国では見当たらないということが新鮮な驚きで、他の国の人もこの本を読んで、同じ気づきを体験していると考えるとなんだか嬉しく思っています。



『古典を読んだら、悩みが消えた。世の中になじめない人に贈るあたらしい古典案内』
 安田登／著
 大和書房 2022.1
 910.4ヤ 本館所蔵

え、古典？と尻込みすることなかれ。本書は、能楽師である著者が、現代人の悩みに寄り添い、解決に役立つ古典の教を噛み砕いて、愛情をもって説いてくれます。「初心忘るべからず」のもともとの意味！時々挟んでくる著者の自分語りもツボです。個人的には、興味皆無だった「能」激推し！脳と心に栄養いかがですか？



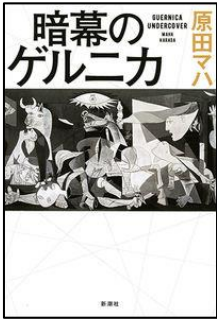
『凛とした女の子におなりなさい
 日本人らしいひと』
 阿久悠／著
 暮しの手帖社 2008.9
 911.5ア 二丈館所蔵

表題を含め9篇が収められている詩集。タイトルを見てハッとした。私は凛とした人間だろうか。読み終わると今度は胸にグサリときた。・・・誰かに守ってもらいたいとか弱々しいこと思っていたなあ、私。この詩のように自由で強くて優しい澄みきった人になりたいと思う。自分の内面を見つめるきっかけになる一冊です。



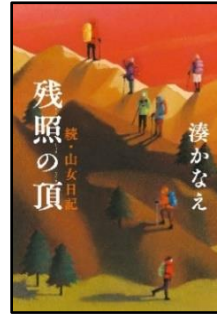
『信長、鉄砲で君臨する』
 門井慶喜／著
 祥伝社 2022.2
 Fカ 志摩館所蔵

戦国時代を扱った映像作品や書籍は数多く存在し、私達を魅了する。ただ、この作品は他とひと味違い、信長と鉄砲、そして鉄砲による戦術の変化、そこに関わったであろう名も無き人々の姿を鮮やかに描き出し、読者を引き込む。門井作品には他にも時代を彩った有名な人物の活躍を描いたものが多く、歴史小説好きにお薦め。



『暗幕のゲルニカ』
原田マハ／著
新潮社 2016.3
Fハ 本館所蔵

タイトルの"暗幕"にはどういう意味があるのだろう？と思い、読み始めた本書。ピカソのゲルニカを巡って現代のニューヨークと70年前のパリを行き来しながら物語は進みます "芸術を通して、戦争・暴力と戦う"というピカソからのメッセージをベースに、登場人物達の織り成すタペストリーは最後のクライマックスまであなたを魅了すること間違いなしです。



『残照の頂 続・山女日記』
湊かなえ／著
幻冬舎 2021.11
Fミ 本館・二丈館所蔵

山に登った事がありますか？きつい、怖い、そんな印象もあるでしょう。でも、すれ違う人々にこんなドラマがあるなんて考えた事ありませんでした。「湊かなえ」さん特有のミステリアスな展開も楽しく、早くページをめくりたくなります。山女の話ですが、人生ちょっと立ち止まる事も大切だと教えてくれました。そして、また小さな一歩を踏み出す事ができるでしょう。



『噛みあわない会話と、ある過去について』
辻村深月／著
講談社 2021.10
BFツ 二丈館所蔵
(Fツ 本館所蔵)

言った方が覚えていなくても、言われた方は覚えているというのはよくあること。人は自分の立場からしか考えられないから、事実はひとつなのに、それぞれの見方で話が噛み合わない。
ひょっとしたら、似たようなことが私にもあるかもしれないと苦い気持ちになる一冊かもしれません。



『自転しながら公転する』
山本文緒／著
新潮社 2022.11
BFヤ 志摩館所蔵
(Fヤ 二丈館所蔵)

地球は秒速465メートルで自転して、秒速30キロで公転している。母の看病のために実家に戻ってきた都。仕事も恋も家族のことも次々と問題は起こる。自分の気持ちがどこにもつかぬかもわからない。くるくると自転と公転がからみあい都はなにを選ぶのか。

NO IMAGE

『人生には何ひとつ無駄なものはない 幸せのための475の断章』
遠藤周作／著
海竜社 1998.3
914.6エ 本館・二丈館所蔵

筆者は遠藤周作になっていますが、彼の死後になって編集された一冊です。人生に悩んでいるときヒントになる言葉がたくさん詰まっています。きっと読む人、年代によって響く言葉が違うと思います。そして、その教えの言葉はときには優しく、ときには鋭く読者の胸に響くことでしょう。



『少年』
ロアルド・ダール／著
田口俊樹／訳
早川書房 2022.2
B930.2ダ 本館所蔵

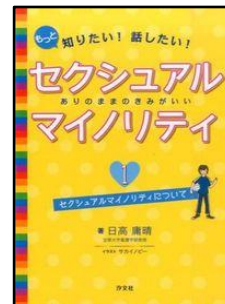
著者は「チョコレート工場の秘密」を書いたロアルド・ダール。幼年から青年時代までの自伝小説ですが、ただ思い出を語るというものではなく、物語として読んでも面白いエピソードの数々。今の時代では考えられないようなこともあって驚きですが、大人になって改めて読んでも切れ味するどい文章で魅力的。

YA(中高生)



『ナチスに挑戦した少年たち』
フィリップ・フーズ／作
金原瑞人／訳
小学館 2018.7
Y238フ 本館所蔵

第二次世界大戦時、ナチス占領下のデンマークで、抵抗運動をした中学生たちのことを描いたノンフィクション作品です。中学生たちの運動が、最後には大人にまで影響を与えるようになりました。本作品では、地図や数多くの写真が掲載されていて、戦禍にあるということについて、理解を深めることができる内容です。



『もっと知りたい!話したい!セクシュアルマイノリティ1 ありのままのきみがいい』
日高庸晴／著 サカイノビー／イラスト
汐文社 2015.12
Y367ヒ 本館所蔵

「LGBTって何だろう?」「男らしく、女らしくってどんなこと?」。ふと、疑問に思ったことはありませんか?世の中の、「性」に関する疑問を分かりやすく、説明しています。「男だから、女だから」。そう言われて、嫌な思いをした方々の体験談も載っています。是非、興味がある人はもちろんのこと、自分の性別に違和感を感じている人は読んでみてください。



『日本人にとって自然とはなにか』
宇根豊／著
筑摩書房 2019.7
Y404ウ 二丈館所蔵

自然とはなにか、考えたことはありますか？自然という言葉の歴史や由来に始まり、自然を多角的にみつめ、日本人の自然観について深く考えることができる一冊です。自然豊かと称される糸島。ページをめくる手を止め、窓外の自然に目を向けてみませんか。



『ぼくを探しに』
シルヴァスタイン／作
シルヴァスタイン、シェル／作 倉橋由美子／訳
講談社 1979.4
Y726シ 本館・二丈館・志摩館所蔵

欠けたぼくが、足りないかけらをさがして、旅をする話。歌をうたったり、花の匂いをかいだり。旅先で出会うかけらたち。それは大きかったり、小さかったり。物語の中の《ぼく》を自分に置き換えてみてください。この本の結末は一つだけですが、人によっても、人生の節目で読んでも、答えは変わってくる本だと思います。

児童書



『夏の庭-The friends』
湯本香樹実／作
福武書店 1992.5
YFユ 本館所蔵
(913ユ 本館所蔵)
(YBFユ 二丈館所蔵)

夏になると思い出す1冊。
近くに住む一人暮らしの老人と3人の少年の出会いと別れの物語。少年たちと老人のかけがえのない夏を描く。日本版『スタンド・バイ・ミー』！ヤングアダルトや大人の方にもおすすめです。
本との出会いも一期一会。心に残る本との出会いを！



『ブックキャット
ネコのないしょの仕事!』
ポリィ・フェイバー／作
クララ・ヴリアミー／絵
長友恵子／訳
徳間書店 2023.3
933フ 二丈館所蔵

ネコ好きのみなさんへ。
猫にはヒミツのお仕事があることを知っていますか。その仕事はブックキャットといっています。ネズミを退治したり、作家さんが物語を描く手助けをしたりします。
これは、第2次世界大戦のさなか、イギリスの出版社、フェイバー・アンド・フェイバー社に住みついた黒ネコ、モーガンの物語です。



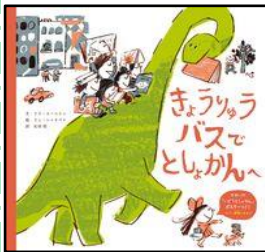
『あたしって、しあわせ！』
ローセ・ラーゲルクランツ／作 エヴァ・エリクソン／絵 菱木晃子／訳
岩波書店 2012.3
949ラ 本館・二丈館・志摩館所蔵

小学1年生のダウンネにできた、気の合う素敵な親友。どんな時も一緒だったのに、その子が遠くへ引っ越すことに…。悲しくて涙が止まらない。けれど、日々は続いていく。笑顔を取り戻し始めたダウンネに、やがてとびっきりの「しあわせ」が訪れます。挿絵も最高に可愛らしい、生きる喜びを伝えてくれる本。



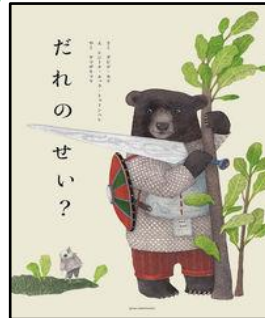
『おしえてくれる？ わたしのなまえ』
ナイジェル・グレイ／文 ベサン・ウェルビー／絵 もりうちすみこ／訳
ゴブリン書房 2023.5
Eウ 本館所蔵

記憶を無くしつつあるお隣のおばあちゃん：フィリスと少女：グレースの交流を描いた絵本。グレースは、フィリスの家に行くうちにフィリスがいろんなことを忘れてしまっていることに気づきます。ある時、フィリスは自分の名前も思い出せなくなります。さて、グレースはどんな対応をするのでしょうか？二人の交流に、心がほっかりしてきます。



『きょうりゅうバスで としょかんへ』
リウ スーユエン／文 リン シャオペイ／絵 石田稔／訳
世界文化ブックス 2022.4
Eリ 志摩館所蔵

子どもたちは図書館で行われる「おはなしのじかん」に参加するため、きょうりゅうバスに乗って図書館へ急ぎます。子どもたちは無事、おはなしのじかんに間に合いますが、そこで問題が発生します。夢のあるストーリーと子どもたちときょうりゅうくんの優しさ溢れるやりとり思わず笑顔になれるはず。



『だれのせい？』
ダビデ・カリ／さく レジーナ・ルック・トゥーンペレ／え ヤマザキマリ／やく
green seed books 2023.2
Eル 本館所蔵

森の中のちいさな砦に住むクマの兵士。ある日突然、その砦が水に流されこわれてしまいます。

「オレさまの砦を こわしたやつを まっぴらに きってやる！」怒ったクマはその犯人を探し出そうとしますが・・・クマの兵士の砦がこわれたのは、いったいだれのせいだったのでしょうか？